

施設の短期中期のサービス向上への取り組み

1. 社会福祉法人として、利用者の満足を追求する
  - 1) 「快食」「快眠」「快便」等、個別支援計画のもと、利用者個々の「快」を提供できるサービスを推進する。
  - 2) サービスマナーの基本を見直し、誰からも信頼される館を目指す  
親身な対応（電話の応対・挨拶・身だしなみ・言葉使い等）
  - 3) リスクマネジメントの拡充を推進する  
ひやりはっと前のきづきを重視する
2. 社会福祉法人として、家族支援・地域支援の拠点となる
  - 1) 地域の高齢者が、介護のレベルにかかわらず、安心かつ安全に暮らせるよう、連雀と機能を分担するとともに、かがやきプラザ相談センターを含め、更なる連携の拡充を推進する。
  - 2) 館の機能（事業）のアピールをする  
シンポジウムの成果を踏まえ、地域の方々をはじめ、ケアマネへ事業の紹介をする
  - 3) 千代田区社会福祉協議会と連携し、地域シニア層のボランティアの活用と育成を検討するとともに、区内福祉人材の育成と就職の仕組みを構築する
3. 社会福祉法人として核となる職員の定着・安心の実現
  - 1) 業務実態を分析し、働きやすい職場環境・働き方を検討する
  - 2) 心身の健康管理を推進する(職員相互の支えあい・助け合い)  
⇒ 結果毎年、離職率ゼロを目指す
4. 社会福祉法人としての経営体制の確立
  - 1) 事業責任者は、月次毎に経営状況を確認し、経営力を養う
  - 2) 事業毎の収支構造を見極めつつ、館としての機能・特性を生かした適正な職員配置を検証し、館としての収支バランスを整え、施設全体の総合力（経営力）を醸成する。

施設の取組

1. 多岐に渡る事業を持つ中、事業間および専門職との連携を更に拡充する
2. あんしんセンターおよびかがやきプラザとの更なる連携を深め、入居者および地域の高齢者の支援を拡充する
3. 常に災害を意識し、いざという時に実働できる力を養う(毎月1回の防災・防犯訓練を実施する)
4. 区との建物設備維持管理を調整する
  - ・ 電話交換機の更新（7月予定）—併せ法人内線化へ着手
  - ・ 入浴機器の更新（未定）
  - ・ 短期入所の4人室の改修申請（未実施2部屋）
5. 各事業の収支状況(館全体の収支状況)を月次で点検する(毎月の運営会議)
6. 次期指定管理への準備をする(現在の指定30年度末まで)